

○木下 健司¹，林田 真梨子¹，萩中 淳¹，市川 厚¹

¹武庫川女大薬

【目的】国際薬学研修としてアメリカ留学プログラムを構築し、将来、国際的に活躍が期待される薬剤師の育成を図る。英語力のレベルアップを図るとともに、チーム医療先進国アメリカの薬学教育を受け、さらには医療現場での薬剤師業務の訪問観察研修を行い、臨床薬学教育を実施する。

【内容】本留学プログラムは 2010 年度より開始したワシントン州立大学薬学部との連携による共同企画プロジェクトである。保険調剤薬局及び病院で実務実習修了した薬学科 5 年生約 30 名を対象（英語能力・成績による学内選考）とし、約 1 ヶ月半アメリカに滞在し、アメリカの薬学教育を受講する。アメリカワシントン州スポケーンにある武庫川女子大学分校に滞在し、午前中はアメリカ人英語教員により英語研修を受け、午後は州立大学が企画した薬学研修を受ける。薬学研修は州立大学薬学部教授陣による薬学講義及び臨床薬学教育施設を利用したシュミレーション実習、さらには近隣の病院・薬局・その他医療施設訪問観察を行い、チーム医療最先端であるアメリカにおける薬剤師の役割を学ぶ。

【考察】臨床現場での薬剤師のさらなる活躍を期待し、6 年制薬剤師の国際薬学研修を実施した。アメリカにおける薬剤師の位置づけは非常に高く、臨床薬剤師教育が最も進んだ国であると言える。学生達は、最先端の薬学教育を受け、臨床現場での薬剤師の活躍や医療の担い手としての意識の高さに直面した。将来、日本での薬剤師活動の明確な目標を設定することが出来たと述べる学生もおり、薬剤師の意識向上へ繋がる有益なプログラムであると認識出来る。将来の参加学生の活躍を期待したい。